

平成 22 年度鹿児島県大学図書館協議会第 1 回研修会記録

鹿児島県大学図書館協議会

テーマ：「各図書館サービス」

日 時：平成 22 年 11 月 5 日(金) 10 時 30 分～12 時

場 所：鹿児島大学中央図書館 5F ライブラリーホール

参加者：16 名

概 要：発表者が事例発表後、質疑応答

事例発表

○鹿児島国際大学附属図書館 パスファインダーについて

初歩の検索入門手引き書として、広報紙『図書館へ行こう!』に掲載している。第 1 回目はパスファインダーの意味について掲載。2 回目はテーマを決めて資料収集の仕方、参考図書を利用したの調べ方。3 回目は、キーワードの入力ポイント。4 回目は検索結果の見方。5 回目は、CiNii を利用して明治維新を調査する予定。最終的には図書館で所蔵していない資料の入手方法を案内する計画。

毎月発行されていることと、より丁寧に資料の検索方法を案内できるため、広報紙『図書館へ行こう!』の一部としてパスファインダーを取り入れた。その他、図書館サポーターの様々な活動を紹介。

○鹿児島大学附属図書館 1 年生対象の図書館ガイダンスについて

授業 1 コマを使って、保健学科 1 年生を対象にガイダンスを行った。ハンドブックとパワーポイントを活用し、OPAC の検索方法、CiNii で雑誌・論文の探し方(練習問題含む)、電子ジャーナル・新聞データベース(南日本新聞)・Japanknowledge について説明した。当初予定に追加して、医中誌と PubMed、図書館ホームページでレポート作成の流れも説明。今後、どのような内容・時間配分でガイダンスを行えばよいか模索中。

○鹿屋体育大学 機関リポジトリについて

システム更新に伴い、学術情報リポジトリを開始した。各大学・機関に所属する研究者の研究成果(論文・レポートなど)を電子化後 web 上で公開、蓄積しサーバーで管理する機関リポジトリについては 2 つの形態がある。1 つは、フリーウェア(UNIX/Linux 用) Dspace などデータベースソフトを入れ、自館でカスタマイズする方式。もう 1 つは Dspace をパッケージ化した図書館システムの利用である。

目的としては、研究成果の保存・公開・発信。鹿屋体育大学では研究紀要を以前より電子化していたので、リポジトリに入れることは容易だった。リポジトリのシステムには統計的機能も備わっているので、利用状況がわかる。今後、解析して利用に役立てたい。

○鹿屋体育大学 参考調査事例

与謝野晶子が生いた文化学院設立(大正 10 年)の記事について調査を依頼された。調査過程は、青空文庫(電子図書館)→国立国会図書館近代デジタルライブラリー→他大学への照会→Google Books→再度、他大学へ照会など。

調べていく中で、依頼された文献のタイトルが再録の際に違うタイトルへ変更された可能性があることがわかった。この事例から、調査の際に信頼できるデータベースを利用することや、電子化されている情報が web 上に続々と公開されてきているので、従来の参考図書での調査に加え、様々な電子化された参考情報も丁寧に調べる必要性を感じた。

質疑応答

活発な意見交換がなされた。

- 図書館サポーターの活動内容について
- 選書ツアーの時期・予算・選書基準について
- 機関リポジトリの研修・内容について
- WebcatPLUS の利用・案内方法について
- レポート作成の流れについて